



古今和歌六帖標注

二



古今和歌六帖第二

山

山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ
山田	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ	いそほ



かまほ

いふまほ

まほ

野

まの野

まの野

まの野

まの野

まの野

かま

ま

ま

大野

小野

ま

ま

らづら

大野

小野

ま

みせま

都

こやま

都

ま

田舎

くま

ま

ま

ま

やど

やど

かま

家

家

ま

井

ま

戸

ま

かど

ま

すたき

ま

ま

人

おきり

わんま

おや

うま

うま

うま

うま

うま

佛事

寺

かぬ

ほ

あま

山

人麻呂

万葉三 生石村主真人  
大波少彦乃持座志都乃石室者  
幾代將經  
契沖云神代紀大己貴命少彦名  
命とともて天下を經營しむは  
あれはかくあづきまのあづき

同 拾神樂 人丸集  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ  
ちひさしき 拾九  
同 大和  
みまろはやその山あふらるるもやまの向ふにむすむす  
の万  
ひさまろ

人丸

万葉金山とあつてはきやほや  
よめりそれよろ  
春秋繁露云金者秋殺氣之始也  
文選張景陽雜詩云金風扇素節李  
善注云西方為秋而主金故秋風曰  
金風

同 十 大和  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ  
同 紀伊  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ

傳未詳

同 三 夫羅三山人丸  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ  
おほしあむちまきくねびとあひ作らるるいもせの山をみ

万葉八小田事とありて主の字ふ  
一 契沖云万葉異本及六帖小事  
主とあつてよろよろま











六百番歌合寄山戀 頭昭

たつともちりてあそぶるも本町のうら  
らうらうらと倒の二ぞを一首に  
あやまね。あまうら  
永久四年百首 大進  
あまのこころもあやめこころの

古今冬  
大なる月のひらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうら

新續古秋下貫之家

かきとてしも色うらうらわいふる  
後秋下友則 家 後家 大和  
かきとてしも色うらうらわいふる  
代意三下人 夫雜三山  
山城  
夫雜三山 山城  
あまのこころもあやめこころの

古雜上伊大家 山城

大なる月のひらうらうらうらうら  
あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの

後秋下家 但馬

あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの

契沖云かさの山

あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの  
あまのこころもあやめこころの

万葉七

庭津鳥可羅乃垂尾乃乱尾乃長心  
毛不所念鴨



和名抄毛群名云本草云鼯鼠和名  
依云兼名施注云状如猴而肉翼  
似蝙蝠云

友  
友  
友

後秋下人ノ積吉終下友則家

後續

海神ノこととて  
播磨

~~~~~

吟詠ハ事ニシテ  
貫之集

かりとれハ  
万夫秋三麻ノ人ノ

人  
丸

同八家集  
同八家持

棹ノ麻ノ  
同八家持

秋ノ事  
同八家持

拾遺秋

御勢

古今秋上

おぼつろ小食の山ノ  
山城

~~~~~

万夫境部王  
蚊龍万

夜國の事  
夫雜之虎ノ人ノ

拾雜卷ノ人ノ

悲力故帟無能為即  
出皿於高山上投身帟前

~~~~~

万士夫雜卷ノ人ノ  
山ノ可 駿河

~~~~~

同六夫伴坂上即女 同  
大和

志  
中  
分  
子

和名抄毛群名云本草云鼯鼠和名  
依云兼名施注云状如猴而肉翼  
似蝙蝠云



後撰夏

藤原雅正

花のうらみもささげしつらさき  
ものゝしほりもささげしつらさき

源輔集

やぶらぎのつらさきもささげし  
まはらぎのつらさきもささげし

山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

貴之集 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

古本上在原棟梁寛新万後六 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

買之集 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

同 新古今 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

同 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

同 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

古秋上忠孝家 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

拾貫貫之亭興風 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

後久よ 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

古今源宗十家頭廿 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

契沖云はの人あつたての時

歌の体はあつた

古今序云はつた

おん

歌の体はあつた

源氏若葉巻云

後撰一伊家 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

万六葛城王大夫兼三山 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

陸奥 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

古離別 拾雅窓 新撰家 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

河若葉 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

拾雅窓貫之家 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

續後遠玉興風 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

後撰二 山さきもささげしつらさきの中あかきつらさきしてつらさきうらみ

々掛き... 乃樂九小... 譚子化書大舍篇云谷非應響也而響自滿之

山びこ

山びこ... 古徳一校... 寛新万

山びこ

山びこ... 拾遺一...

山びこ... 晋書之集

山びこ... 古徳一校... 古本實之集

山びこ... 伊勢

伊勢

後撰卷一... 伊勢

伊勢... 古本實之集

伊勢... 古本實之集

伊勢

伊勢... 古本實之集

伊勢

伊勢... 古本實之集

伊勢... 古本實之集

伊勢... 古本實之集

伊勢

伊勢... 古本實之集

四不可得經云 人則計篇至大山 無人之處摩山而解入中還合無常 之對安知吾處 万葉十一 高山之石本流千逝水之音雨者不 立懸而難死 增壹阿含經第五十云大石山縱廣 一由高一由旬設有入來手執天 衣百歲一拂

母へく

家夫雑十卷

若かりし〜

心家

心家

續十載戀四 是則

村山なねらまの〜

第二已出

志〜

古雜下これたのり

白のた〜

古本貫之集

しゆん

古秋下 第六重出

秋風の吹〜

谷

貫之集

谷の吹〜

深草文

古雜下 新撰

花の吹〜

古まき古新

貫之集

契沖云物おひ〜

夫雜三よ〜

おひ〜

陸奥

同

新勅應〜

同

い〜

松や〜

万七

また〜

同土

や〜

ちの〜

河松

ちの〜

この〜

古雜下 新撰 家新朗

お〜

述異記云信安郡有石室晉時王質伐木至見童子數人暮而歌質因聽之童子以二物與質如棗核質食之不覺幾成頃童子謂曰何不去質起

視谷柯爛盡既歸無復時人  
拾遺雜戀

くふもち  
ほり〜〜〜め〜〜〜

白居易賣炭翁詩云賣炭翁伐薪燒  
炭南山中滿面塵灰煙火色兩鬢蒼  
蒼十指黑惟念之炭得幾何  
而己心憂炭貴不如心願  
得食飽  
かき〜〜〜る〜〜〜万葉古今あ  
た〜〜〜大系山小野山あ〜〜お  
よ〜〜おわ〜〜めり

富士のふたまたま〜〜〜

す〜〜〜

續詞戀上 代々集 家  
は〜〜〜  
元良親王集  
か〜〜〜  
か〜〜〜  
た〜〜〜

此名誤也

後雜四 北邊左大臣

〜〜〜

わち

源朝臣師頼  
源河院百首  
〜〜〜

夫雜三 奥色  
〜〜〜  
武藏  
〜〜〜

万葉四  
聖武天皇御製  
赤野之越馬柵乃織結師嫉情者疑  
も奈思

備伊勢  
〜〜〜  
新十徳三 代徳三 夫雜三  
〜〜〜  
夫雜三  
〜〜〜

万王 新十徳三 夫雜四  
〜〜〜

第五重出 大和  
〜〜〜

傳未詳

若秋二槿  
〜〜〜  
若秋

枕草紙  
〜〜〜













順集  
子ぬのの子田をりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり

ほづのこいし  
天武天皇  
御子

万二  
秋の田はほむのりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり

秋の田

あまのこゝろに人よもあぬひつたはるるあやもを生ゆるたわや  
後秋上より人よ

かりほ

五十新吉秋  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
家持集

いづみ

拾遺秋  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
代家

いづみ

和名抄拾類唐韻云摺音呂後漢書  
此俗知自生稻也

此詩歌りまゝに改れり  
抄りいふは等しきりけれり  
ふいふ

和名抄羽族名稻負鳥萬葉集云其  
以奈於信  
世止利  
を掃りいふはあやもをりまゝに刈あ  
げぬけははぬるはるるききり  
の二はあやもをり

古事記神代卷云久延毘古者於今  
山田之曾富藤音也此神者足雖不  
行盡知天下之事也云  
宣長云さて考定勝は後の歌りまゝに

代秋上家  
かろほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
そつ代

万十  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
玉旅人丸

同  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
あまのこゝろ

後秋中  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
舒明天皇御子

いなあなをりまゝに  
たぐみま

古秋下  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
新

人ぬ

同秋上  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
新

おほほ

夫秋三秋田  
秋の田はかりほをりまゝに刈あげぬけははぬるはるるききり  
あれど













後撰卷一  
あふみさかづるまはたけ  
かたむねのあふみさかづるまはたけ

拾遺冬  
ひひまふしつれいあふみさかづるまはたけ  
あふみさかづるまはたけ

乃てよき〜あふみさかづるまはたけ

古春下巻の家  
あふみさかづるまはたけ

同秋上巻の家  
あふみさかづるまはたけ

秋の野にさよふあふみさかづるまはたけ

朝恒集  
あふみさかづるまはたけ

拾秋上巻の家  
あふみさかづるまはたけ

あふみさかづるまはたけ

貫之集  
あふみさかづるまはたけ

五十新拾秋上巻の家  
あふみさかづるまはたけ

吉村人九集  
あふみさかづるまはたけ

万八夫秋二秋花  
あふみさかづるまはたけ

同  
あふみさかづるまはたけ

みゆき

古今集  
あふみさかづるまはたけ

續古雅中是則 代雅二家 夫雅五嶋同六河  
あふみさかづるまはたけ

あふみさかづるまはたけ

梓  
あふみさかづるまはたけ

たて尺橋おる

同九 續後拾雅中 第六重出  
あふみさかづるまはたけ

石大井八束

同 夫雅十四玉  
あふみさかづるまはたけ

同九 紀伊  
あふみさかづるまはたけ

万葉二十  
九子部佐壯  
久自我波々佐氣久阿利麻豆志富  
布祢爾麻可知之自女伎和波可敷

生國云々上より孝上白皇は御事と  
いひ西宮紀元より孝上白皇は御事と  
えて三代実録より孝上白皇は御事と  
ぞ三つ此後より一々皆孝上白皇は御事と  
類聚國史の標目も天皇行幸太  
上天皇行幸しあり  
ひひまふしつれいあふみさかづるまはたけ  
あふみさかづるまはたけ  
あふみさかづるまはたけ  
あふみさかづるまはたけ

大政大臣藤原房前  
男貞通先名

里許年

袖中抄卷五云井川野村幸と云  
を初めそのせり何と云ふこと  
かひあ一々

同六家持

大工のいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

せり何より昔一紙よ叶ふ

阿保親王男

後雜一

さうねふいひきさうみ芥川の野とみ古き歌いありけり

五人丸

大難八崎袖 近江 土まゝのあゆみか  
竹葉浪やまかきれうさたけきてまを人けふねとをひせり

都

後人志願

同九 夫雜六沼より入るる

大君も神もまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

古春下あふのいひよきもの

いよの上あふまひし 新撰 大和 ちかき古新  
うささくあり古新 大和

そせり

同春上家朗 卅

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

同辭族 ねと

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

大伴の四魂 傳未詳

若冲云とあると後へ一よあそと

後拾遺雜四

橘李通

たけしきのたけしきよみと云ふこと

古今雜下

行平朝臣

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

書紀神武紀云戊午年九月云云是

夜自新而後

書撰法師

古今雜下

書撰法師

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

契沖云云いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

家

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

大宰帥の老翁 傳未詳

万三

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

都

たのまひ

後拾遺雜 和泉武部

古辭族 伊家 新撰

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

万三

いよのいひよきものまはるゝおせとては松まづ月ぞるよけ

齋宮女御集

人を祈りて...  
あつた...  
あつた...

め...  
夫雑九  
人のす...  
夫  
の夫

わ...  
わ...

舟...  
夫雑九  
夫雑九  
撰津

人丸

ふ...  
ふ...

いせ

古雑下  
後雑四家  
い...  
い...

おれ

新言雑下家  
あ...  
あ...

光孝天皇  
皇子

後撰...  
後撰...  
後撰...

伊勢

後雜別 伊勢集 大鏡大  
の  
何  
人  
後

万三長教末也  
の  
何  
人  
後

も...  
も...

中絶...  
左大井石足男

万丸  
万丸  
万丸

ひ...  
ひ...

同十三  
夫雑三山...  
夫雑三山...

あ...  
あ...

け...  
け...

人丸集  
信明集

手すかまひまのきやりのりてりてん下回  
被撰一

おのゝとてふくくるるちやちやとて  
くもてよおちふたてふくくるるせ  
袖中抄巻十八ふくくるるてのふくくるる  
くくくくくくくくくくくく

延喜雜式云元難波津頭海中立澤  
標若有舊標朽折者搜求去云  
書紀神武紀云作大室於忍坂邑盛  
設置一ふたふた宴樂一於ふたふた  
顯昭陳狀云日本紀大室の字をよ  
古語拾遺大室樂と云り元日祭奉  
宣命と云のあつりきりあつり日か  
け。所謂本朝月令は延暦八年正月  
一日云今日正月朝豊明聞食云これ  
のあつり白馬踏敷重陽新嘗と  
あつりのあつりてふくくるるあつり

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
和名抄菜羹類云唐韵云羹和名加  
俗用莖蔓青苗也  
拾遺物名くたち ちひえ  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

本草和名云五味和名佐祢加都良

續古志一ふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる  
あつりてふくくるるあつりてふくくるる

そよよそよよの風の音はしらけゆくはたのぼるはなはな

~~~~~

古大司所人九集

まなねふくきびの中心おびせせぬおりのまなねふくれ

万葉三  
思家督情進安風侯好為而伊麻世

周防あるはる國の心をこころいこころいこころい

同六巨曾倍對馬朝臣 同雜五嶋

なほあるおまつらひのたまたまてのたまたまてのたまたま

契沖云おまつらひおまつらひ

はの思はさるひの浦をさるひの浦をさるひの浦を

同七同雜七浦

~~~~~

又云このあとのことま紀州粟碓

おつちのやまの山をさるひの山をさるひの山を

いこころいこころいこころいこころいこころい

さるひの浦をさるひの浦をさるひの浦を

~~~~~

二三廿八

いづれもひまの影はひねもよすてぞとくろふもあはれん

~~~~~

あゝ京の志げま 中將紫平

~~~~~

大和の山をさるひの山をさるひの山を

伏見の山をさるひの山をさるひの山を

~~~~~

久々の月の桂のさるひの山をさるひの山を

~~~~~

あゝ京の志げま 中將紫平

あゝ京の志げま 中將紫平

あゝ京の志げま 中將紫平

あゝ京の志げま 中將紫平

あゝ京の志げま 中將紫平

あゝ京の志げま 中將紫平

袖中抄卷十二云ふ〜山本山城  
金原軍不付れ〜伏見大和  
あゝ京の志げま 中將紫平

あゝ京の志げま 中將紫平



新拾遺不月... 又作者を... 古くは... 作者を...

契沖云大系... 大和あり... 元年云... 大和國歴... 左傳魯隱公九年三月云平地尺為大

新拾遺夏業平... 新

古意田家... 新

大和... 新

大和... 新

大和... 新

山城... 新

古今雜下... 新

新撰

新撰... 新

新撰... 新

新撰... 新

新撰... 新

新撰... 新

新撰

新撰





人まら

至京人集

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

同二天宮天皇

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

夫雑三卷

あまのりいひのあし

さか

後春家新明

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

伊勢集

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

伊勢集

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

ゆ

あまのりいひのあし

古大歌所

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

神夫雑八

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

枕名紙張六としり傳ふるゆゑの  
言せらるる

伊勢集

いづこにおもふるるゆゑの  
井よしもわがふよままの

和名抄牆壁類云釋名云離加名未  
云末以崇作之言疎離也

万七

あまのりいひのあし

玉雜三伊勢家

あまのりいひのあし

万九 夫雜八

あまのりいひのあし

夫雜八

あまのりいひのあし

万七

あまのりいひのあし

まがき

古離別通昭家新撰

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

ふらやぶ

古誹諧

あまのりいひのあし

あまのりいひのあし

久安百首 菊 崇徳院御製  
まのりいひのあし





万葉十一  
難波人葦人焼屋之酢四手雖有已  
妻許曾常日類次吉

古意田 後意三家  
同秋上  
古

そせい

常ノカヌ  
伊勢

伊勢

家  
家

しゆき

家  
古意二京住 家

古家  
古家

むら

万土 新千意  
指め  
古家

古今賀  
業平朝臣

童蒙抄卷四云  
袖中抄卷五云  
心久保之取蛇尾云  
備延注云佐備發謗之意云云  
かちさびはかちほ

同七  
大和  
同土 新勅意  
おまな

おまな

同  
古雅上棟梁 寛新カ  
越前  
そ新

同  
夫雅七  
おまな

後雅一伊 第五重出  
おまな

同冬 家 古本兼捕集  
おまな

おまな

同冬 家 古本兼捕集  
おまな

おまな

同冬 家 古本兼捕集  
おまな

よろー」  
家持集

向ふのちをまごつてお梅がうら  
いしうらやまごつてお梅がうら

かほせうけの中御

同 古本集 貫之集 うら後  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
うら貫

同 同 うら後  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
うら後

はしめ

續後拾雅上 家 代雜二ぬつてうら續代  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
よ家 又と續代

貫之集 播磨  
お梅のちをまごつてお梅がうら

共平

後雜二 古本集 ひらがな  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
ひらがな

とーや

古雜上 家 うら古  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
うら古

東三條のたち戸 嵯峨天皇  
皇子常公

催馬樂

お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

朝恒集

お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

同 春上 第六重出

お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

夫雜十二 出家 の家夫  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

とーや

拾雅香 古本集

お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

おんな

いーのひめ

お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

かほせ

夫雜七 藤原匡房  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

お梅

夫雜七 藤原匡房  
お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら

お梅のちをまごつてお梅がうら  
めつてうらやまごつてお梅がうら





和名抄牛馬類云辨色立成云特牛

後雜二角座の〜大

我の〜〜〜〜〜命を

古唐比頭大牛也

夫雜九牛〜〜〜

〜〜〜〜〜命を

夫本雜十五車 源仲正

我を〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜命を

万三並朝臣金村 夫雜山

〜〜〜〜〜命を

近江

〜〜〜〜〜命を

同上 古本九車

〜〜〜〜〜命を

万士

〜〜〜〜〜命を

我の〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜命を

同七 拾遺四人九

〜〜〜〜〜命を

夫雜四人九

〜〜〜〜〜命を

夫雜四人九

〜〜〜〜〜命を

夫雜四人九

〜〜〜〜〜命を

書紀欽明紀云七年秋七月倭國今

來郡言中畧乃見良駒及壯鴻鷲

延喜六年竟寧三善清行

〜〜〜〜〜命を

度大内丘之壑十八丈焉

夫雜六人九

〜〜〜〜〜命を

仲良紀小十尺をヒトツエとあり万

夫雜六人九

〜〜〜〜〜命を

葉十三に杖不足八尺乃葉とるけ

夫雜六人九

〜〜〜〜〜命を

十丈をどつ及とあり

夫雜六人九

〜〜〜〜〜命を

論文云駿馬七尺為樂

同雜二山人九

〜〜〜〜〜命を

枕草紙云〜〜〜

同雜二山人九

〜〜〜〜〜命を

伊勢集〜〜〜

同雜二山人九

〜〜〜〜〜命を

時つ〜〜〜

同雜二山人九

〜〜〜〜〜命を

書紀天智紀云十年夏四月

袋四沐浴間鐘誦文歌 效上

〜〜〜〜〜命を

置漏冠於新皇始打候時動鐘設始

〜〜〜〜〜命を

和名抄琴瑟類云日本琴體似箏而短小有六絃俗用倭琴二字夜萬止

五石 夫雜曲家持  
古雅  
後冬增基法師 新朗素藤  
神 今月射白

古雅  
後冬增基法師 新朗素藤  
神 今月射白

同雜一素性 家  
以後素  
下後  
下後

和名抄琴瑟類云日本琴體似箏而短小有六絃俗用倭琴二字夜萬止

古止  
大和物語  
古辭語  
新後拾雅上葉平 伊 葉葉葉  
長海市コカマ

古止  
大和物語

古辭語

新後拾雅上葉平 伊 葉葉葉

長海市コカマ



